

平成20年度第9回 下山地域会議 会議録

【日時】平成21年2月18日(水) 19:00～21:15

【場所】下山交流館第11会議室

【出席者】委員 15名出席

事務局 加藤支所長 原田 西山 川合 加藤

【次第】1 あいさつ

2 会議録署名委員指名

3 前回会議録の承認

4 報告

(1) まちづくり推進協議会について

(2) 予算提案事業実施に向けた分科会の報告について

5 協議事項

(1) 平成21年度わくわく事業について

(2) 分科会及び今後の地域会議の進め方について

6 今後の予定

【内容】

1 あいさつ

2 会議録署名委員指名

兵藤奈美江委員を指名

3 前回会議録の承認

全委員承認

4 報告

(1) まちづくり協議会について

昨年5月にまちづくり推進協議会の設置、2月5日に第2回まちづくり推進協議会を開催し、テスココースの経過報告と今後の予定について報告しました。

内容の一つは、造成計画の見直しです。猛禽類の巣が確認されたため、全体面積660haの内、開発面積が6割から4割に変更されました。

用地交渉の状況については、買収単価等が8月に条件提示されたためそれ以後、集落単位の説明会を経て個別交渉に入っており、2月の時点で面積約610ha、約92%の合意、契約がとれている状況です。下山地区では、地権者の約97%の合意をいただいております。今後は、対策委員会を経て地権者に個別に通知を送り、3月末までにこの事業をやるかやらないかの判断の決定をする予定になっております。

(2) 予算提案事業実施に向けた分科会の報告について

(会長)予算提案事業実施に向けた分科会の報告について、みりんの代表者の方からお願いします。

(委員) みりん分科会事業準備会の開催の結果、3つのみりんのプロジェクトの中で、食べてみりんプロジェクトを事業化にすることにしました。新鮮でおいしいものが食べられる下山を、地域の内外にPRし活性化させるための人選が必要なため、食べてみりんの小分科会5名を選出し、実働メンバーを3名ほど一般募集して、小分科会5名、コミュニティ会議青少年部会、健康増進課と交えて2回目の事業準備会をすることに決定しました。

(会長) 子育て支援環境事業の報告をお願いします。

(委員) 分科会を開催しスケジュールについて検討しました。4月は交流会、意見交換、情報収集のため、関係団体と会議。5月にマップ作りのための調査。6月は原稿作成し8月までにマップ配布の実施ということで方向付けしました。

(会長) それでは協議事項に移ります

5 協議事項

(1) 平成21年度わくわく事業について

(事務局) 応募の期間は、3月23日月曜日から4月13日月曜日、応募方法は昨年と同じです。申請書は市のホームページか支所の地域振興担当の窓口でお渡しします。審査会の日時は、4月25日土曜日、審査基準については下山独自で設けている項目を説明します。備品購入は、購入費の2分の1補助。下山地域会議においては食料費は全て対象外経費で取り扱っています。補助額については、1事業100万円が限度です。3月の支所だよりでPRを図っていきます。

(会長) ご意見、ご質問ありましたらお願いします。

(委員) 備品購入費は補助率2分の1か。

(事務局) 今までと同じです。備品か消耗品か分かりづらい場合は、単価が2万円以上のものを備品とします。2万円以下でも備品と分かる物は、2分の1補助です。

初年度、申し込み額が500万の予算額を大幅に超えたことがあったため、2年目から1事業につき100万円を限度額とさせていただきました。

(委員) 沢山の応募があったため、多くの団体に補助金を使っていたきたいという趣旨で、備品は半額補助にした経緯があります。

(委員) 食料費について、作業に出た場合のお茶代くらいは認めてもいいと思います。

(会長) 備品は、今まで同様2分の1補助にします。会議の時のお茶は認めるということですが、よろしいでしょうか。

委員了承

(2) 分科会及び今後の地域会議の進め方について

(事務局) 地域会議の進め方について、全体会の今後の進め方、地域住民や他の団体との係り方、課題の検討が完了しない場合についての3つを委員の皆さんで合意し、その方法の共有が必要になると思います。

分科会は、1つのテーマを専門的に実施団体や当事者を交えながら、具体的に進めていくのが分科会の活動の姿。このためには、分科会を毎月1回程度開催、進捗状況を2ヶ月に1回全体会で報告をする。分科会の方で全体会に相談があれば相談、協議することで進めて行ってはどうかと思います。

全体会の進め方ですが、下山の地域会議でも3つの分科会があります。住民の皆さんの意見を聞くために、各分科会がそれぞれ単独で自治区の方に意見を聞いたり、アンケートお願いしよう

とすると、自治区の方に大変負担をかけてしまいます。各分科会で聞きたい内容を出し合い、全体会で調整することが必要です。

今後のスケジュールは、去年計画した事業は4月から取り組み、22年度の事業計画は10月までに策定することになります。提言やまとめは10月以降3月まで検討することになります。
(会長) 今後は、このスケジュールで進めていきます。

次に、地域会議が地域に出て行き、どのような方法で情報収集していくか検討します。

(委員) 事業実施にあたっては、地元の意見が必要になります。一度地域全体で意見交換会を開催すれば見える化事業もはっきりしますし、地元の意見もまとめやすいと思う。

(委員) 地域会議が提案していく中で、地域の人との合意は大切ですが、情報収集だけのために集まりいただくのは失礼。分科会で事業の実現に向けベストな案を作り、提言という形で合同会議を開催し、意見を収集する方法がいいと思う。案が無いまま会議を開催しても、皆がいろいろな意見を言ってしまい方向性が出ないし、うまくまとまらない。

(委員) 地域会議は何をやっているのかと聞かれることが多い。会議で話し合っている事業化の内容を広報などで報告するといった手段が必要。

(事務局) 支所だよりに掲載しただけでは地域の方に伝わらない部分がある。地域会議で煮詰めた内容を提案する機会を6月に設定。5月までに分科会で地区に持ち帰りたい内容を話し合い、5月に全体会を開催して地区へ持っていく方法を検討していただくため、6月までの間に情報提供と住民意見の徴収の時期が設定してあります。

(委員) 地域の課題や何かありませんかと聞いても何も出てこない。地域会議の中で方向性をつけ、地域の考えを聞く方向でないと情報収集できない。

(会長) 地域に出て行く前にしっかりしたテーマを持って行くべきだということですね。

(委員) 意見を聞く場合はアンケートでなく、丁寧に意見が拾えるよう直接下山の0歳から100歳までの人の意見を聞かなければ意味が無い。子ども達は、下山の自然環境や、大人が子どもを大事にしてくれる環境が大切だと言っていた。ここで暮らしていることが楽しいと感じている老人の方から楽しい所や、気に入らないこと等の話、子育て中の若いお父さんお母さんの意見や、お金を稼いでいない側の人たちの意見も大切。そういう人達の言葉を拾い上げたい。

(委員) 情報収集が一番大事だと思いますが、その方法が難しい。テーマについて説明し、幅広い世代の意見を聞いて計画を進めていけるような形にするのが一番いいと思う。

(委員) 毎月定例会が行われます。住んでいる方の身近な問題が出るので、地域会議の内容を報告しながら定例会で情報を集めてきたらどうでしょうか。

(委員) 地域会議の情報発信が不足している。分科会を中心に事業をすすめ、地域住民の声をひろいあげていかなければいけないと思います。

(委員) 文化祭の時に、地域会議の内容をパネル展示で見せ情報発信する。展示場を休憩室にして、気楽に井戸端会議のような話ができる雰囲気になれば、皆さんの意見や話が聞けると思います。

(委員) 情報収集は、コミュニティや区長会と交流会を設定して大勢の中で話をするより、少人数のグループで話し合いをしたほうが、多くの意見が聞けると思います。

(委員) 問題は地域会議が先か、地域の考えが先かということだと思います。提言をするための意見を出してもらえる方法として、区長さんに意見を聞くことは、今後の進め方にとって大事なことだと思います。

(会長) 皆さん同じ意見です。情報収集は絶対に必要なため、幅広い年齢層から意見を収集する。具体的な内容を地域会議で検討し、そのテーマで早期に意見をいただくといった方法ですね。

次に、我々は任期があり、その任期の中にどんな形で完結させ終了するかですが、終了させることと継続させることと分けた方がいいという意見があります。いかがでしょうか。

(委員) 事業を実施し、情報収集しながら来年度の事業計画を策定しなければならないとなると、事業が次年度にまたがる可能性があります。次の委員さんに引き継ぐ時、新委員さんがその人達のレベルまで持っていかないと毎回同じ繰り返しになります。任期のある委員さんは、引続いて関わっていただきたい。そうすれば、皆さんが言っていることと整合性がでてくる気がします。

(委員) 現在の分科会は、前のテーマを受けている。プラス具体的に何ができるかに一生懸命になっています。データをそろえるために、委員さんが個人的に話を聞いたり、調査したりすることはできます。限られた時間で地域会議の中で上手く進めていくには、今年1年で計画し、地域の方との合意がとれれば、来年度、再来年度にうまくいくと思います。

(会長) 任期がある中で区切りをつけなければいけない部分があると思うが。

(委員) 地域会議はアドバイザーといった知恵を出す顧問的な立場だと思います。実施団体が立ち上がれば、地域会議から独立して活動させたい。具体的な実施のための方法を考え、活動団体に移行していかないと引き継いでいくのは難しい。委員が変わっても引き継いでいけるような5年から10年のスパンのビジョンを作り、2年任期の中で実施できる内容を検討することが必要。

(委員) 住み良くしよう、楽しく住める街にしようというテーマで進めていくのなら、長い目で見て継続していくべき。現委員でできるところまで実行し、その先は次の人に話合いの場を持ち引き継ぐといった考え方でいい。人が変わることで、問題の優先順位が変わることもありますが。

(会長) 正式な場を持ち、きちっとつながる申し送りをしていく。違う意見の方みえますか。

(委員) 分科会で実働できる人材に困っていたが、コミュニティの青少年部会にお願いすることにした。団体に任せ、付属できる事業が実施できれば、ある程度成功だとも考えても良いと思います。みりんプロジェクトは3つあるため、任期をまたいでしまう。任期中に達成することは難しいので、実働できる団体に移行していくようにしたほうがよいのでは。

(会長) 事業化に向けては、受け皿となる人や組織に移行して行って一つの区切りとするということですね。

(委員) 前地域会議の委員の方もどうなっているか気にしている。つなげていくとなると、現委員だけでというのはなかなか難しい。活動できる団体や法人に移行できれば、地域会議としての気持ちを伝え、今後の活動につなげていく方法がいい。

(会長) きちっと申し送るということは前地域会議のことをきちっと受けるということになります。今の意見を事務局でまとめていただきたいと思います。これで今回の地域会議を終わらせていただきます。